

Newsletter of Japanese Coral Reef Society

日本サンゴ礁学会ニュースレター 2010/2011 No.2

contents	page
第2回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウム開催 報告	2
第6回国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)東アジア地域会合開催	2
日本サンゴ礁学会第13回大会および公開シンポジウムのご案内3-7	
2nd APCRS特集 [川口基金助成 参加者報告書] [Student Best Presentation Award 受賞者報告]	8

会 告

2010年度総会の開催について

日本サンゴ礁学会 2010 年度総会を、下記の通り開催いたしますのでご出席下さい。
なお、総会に出席できない方は、委任状を学会事務局・浪崎直子会員 namizaki.naoko@nies.go.jp に 11 月 25 日 (木) までに電子メールでお送り下さい (メールの件名に「2010 年度総会委任状」と明記下さい)。委任状にはご自身の氏名と被委任者の氏名(または役職)をお書き下さい。被委任者の欄が空白の場合は、総会議長に委任とします。

日本サンゴ礁学会 会長 土屋 誠

2010年12月4日(土) 16:15~17:45 つくばカピオ ホール

- 議事(案) : 会計報告、監査結果報告、予算計画、各委員会報告、総会後、学会賞・川口賞授賞式と受賞講演があります。
- 事務局 : 茅根 創・浪崎直子



第2回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウム開催 報告

日本サンゴ礁学会 会長 土屋 誠 tsuchiya@sci.u-ryukyu.ac.jp

2010年6月20-24日に第2回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウム(2nd APCRS: Asia Pacific Coral Reef Symposium)がタイのプーケットで開催されました。実行委員長を務めたThamasak Yeeminさんは琉球大学で修士課程、九州大学で博士課程を修了した研究者で、日本サンゴ礁学会員でもあります。私たちは運営に協力する事を約束し、2年前から綿密に連絡を取りながら準備を進めてきました。日本からの参加者はプログラムの名簿によると67名で地元タイと同数ですが、タイからは当日参加者が多かったのが2番目になります(全体の参加者は30カ国から400名以上)。シンポジウムでは23個の分科会が企画され、そのうち15個の分科会では日本人研究者が諸外国の研究者と協働でオーガナイザーを務めました。この規模の集まりは、会場内で多くの参加者とコミュニケーションをとることが可能であるので大変充実していたと好評でした。

基調講演ではChou Loke Mingさん、Clive Wilkinsonさん、Mark Eakinさん、Alan Whiteさん、Edward Gomezさん等各分野の研究者から興味深い話題の提供がありました。筆者も、サンゴ礁と周辺生態系との関わりに注目し、陸から沿岸までを大きなシステムとしてとらえる重要性について講演しました。アジア太平洋地域以外からもBarbara Brownさんなど著名な研究者が参加しており、随所で活発な情報交換や議論が交わされていたのが印象的です。

エクスカージョンでタイのサンゴ礁を観察してきた仲間たちが、4月頃から広範囲におきている白化現象が今でも顕著であったと報告していました。大変気がかりです。

バンケットは常に重要な交流の場です。開会が遅れたため、早くビールが飲みたいと言っていたのは私だけではなかったようです。その後披露されたタイダンスや、茅根事務局長の舞台での活躍も楽しみながら、旧友と、

あるいは新しい友人達との会話は尽きることがありませんでした。

閉会式ではアジア太平洋サンゴ礁学会の設立が宣言されました。日本サンゴ礁学会は、この学会の設立に関して深く関わって来ており、折々大会などで状況を報告してきましたが、多くの会員は唐突な感じを受けたでしょう。しかしながら担当者たちは精力的に意見交換を重ね、本シンポジウム開催中も複数回議論し、設立は閉会式直前に決まったようです。当面は、このシンポジウムの継続的な開催、ニューレター発行が約束され、今年中に役員を決定すること等が報告されました。木村匡さんが世話人代表として関わっています。

Yeeminさんは職員と学生のみで運営を行ったため不手際が多く、参加者に多大な迷惑をかけたことと謙遜していましたが、決してそのような印象は受けていません。見事なチームワークでアットホームな素晴らしい運営でした。次回は4年後に台湾で開催される



タイではいろいろな人(?)と議論ができました。



シンポジウム終了後、フィールドに出て漁師さんの話を聞いています。

予定です。

私たちはこのシンポジウムで新しいネットワークを構築することが出来ました。引き続きアジア太平洋地域におけるサンゴ礁研究の発展とサンゴ礁環境保全に向けて努力したいものです。

第6回国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI) 東アジア地域会合開催

～ ICRI 東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略2010を策定～

環境省自然環境局自然環境計画課 荒牧まりさ MARISA_ARAMAKI@env.go.jp

2010年6月26日から28日にかけて、第6回国際サンゴ礁イニシアティブ(International Coral Reef Initiative: ICRI) 東アジア地域会合が、第2回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウム(APCRS-2)の直後に、同じタイ、プーケットにて開催されました。同会合には、アジア地域の関係10カ国(カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、フィリピン、シンガポール、タイ、東ティモール、ベトナム)や、サンゴ礁保全に取り組む団体・研究者等41団体から計74名が出席し、「ICRI 東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略2010」が策定されました。同会合において、環境省はタイ政府海洋沿岸資源局と共に事務局を務め、上記戦略の取りまとめを行いました。また、今回の成果は本年10月に愛知県名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(CBD COP10)のICRI サイドイベントで発表されました。



第6回 ICRI 東アジア地域会合の全体会合の様子

戦略策定までの背景

日本は、ICRIの設立(1995年)当初から中心的に関わってきており、2005～2007年には、パラオ共和国と共同でICRI事務局を担当してきました。その事務局期間中、ICRIでは、2002年に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)」において設定された、2012年までに代表的な海洋保護区(MPA)ネットワークを構築するという国際目標に向けてどう対処すべきかが主要な議題の一つとして議論され、2007年4月に開催されたICRI東京総会では、サンゴ礁と関連生態系を含むMPAネットワークの構築を推進する決議が採択されました。一方、東アジア地域では、多くの国がまだこの国際目標に向けた取組の端緒についたばかりであり、地域ぐるみでの連携や協力の促進が求められていました。

こうした背景を受け、日本は、東アジア地域において、2008年から2010年にかけてICRIの東アジア地域会合を相次いで開催し、このMPAネットワークの課題を中心に議論していく取組を支援してまいりました。2008年11月の第4回地域会合(東京)では、2010年までに東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略を策定するための「2009～2010年暫定計画」が作成・合意され、2009年12月の第5回地域会合(ホイアン(ベトナム))では、同戦略の検討が行われました。そして、今回合会において、これまでの議論をとりまとめ、同戦略が策定・合意されました。

ICRI 東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略2010の概要

この戦略は、サンゴ礁及び関連生

態系の保全を進めるために東アジア地域における継続的な連携体制を形成していくことや、東アジア地域におけるサンゴ礁のMPAネットワーク形成の取組のあり方などを明らかにしたものです。戦略では3つの目的が設定され、それぞれの目的を達成するために地域で実施すべき具体的な取組が示されています。

【目的1】 連携のための地域メカニズム形成: 東アジア地域会合の継続開催、地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク(GCRMN) 地域ネットワークの推進等による地域連携の強化、情報共有ネットワークの構築。

【目的2】 2009～2010年暫定計画フォローアップ: 地域MPAデータベースの拡充、地域サンゴ礁生息地分布図の作成、地域MPAギャップ

分析の実施、地域MPA管理効果評価システムの検討など、暫定計画に盛り込まれた取組事項の実施と普及。

【目的3】 地域及び国レベルの政策に対する提言: 3回の会合を通して議論されてきた、東アジアにおいてサンゴ礁MPAネットワーク形成で重要な視点(持続的利用、地域住民の参加、伝統的知恵の活用等)をとりまとめたガイドラインの作成と普及。

【関連ウェブサイト】

- ・ICRI 東アジア地域会合メインサイト(英語)
http://earw.icriforum.org/earw_mpa.html
- ・第6回 ICRI 東アジア地域会合結果サイト(英語)
<http://earw.icriforum.org/EastAsiaRW2010.html>
- ・ICRI公式ウェブサイト(英語)
<http://www.icriforum.org/>

日本サンゴ礁学会 第13回大会および公開シンポジウムのご案内

■日時：2010年12月2日（木）～12月5日（日） ■会場：大会・懇親会：茨城県つくば市「つくばカピオ」
 高速バス「つくばセンター」、つくばエクスプレス「つくば駅」より徒歩7分（http://enjoy-live.net/detail/detail.php?hall_id=1519 をご参照ください。）
 ■第13回大会実行委員長：山野博哉（国立環境研究所）



》スケジュール

12月2日（木）大会初日	12月4日（土）大会3日目
■ 評議員会.....10:30 - 12:30	■ 口頭発表.....9:15 - 12:00
■ 大会受付.....11:00 - 13:00	■ 「サンゴ礁学」ワークショップ...13:15 - 16:00
■ 口頭発表.....13:00 - 17:00	■ 総会.....16:15 - 17:45
■ ポスター発表コアタイム①.....17:00 - 18:30	■ 記念講演会.....18:00 - 19:00
■ 自由集会①.....18:30 - 21:00	■ 懇親会.....19:00 - 21:00
12月3日（金）大会2日目	12月5日（日）大会4日目
■ 口頭発表.....9:15 - 17:00	■ サンゴ礁保全委員会.....9:15 - 12:00
■ ポスター発表コアタイム②.....17:00 - 18:30	■ NPO ポスター発表コアタイム.....13:00 - 14:00
■ 自由集会②.....18:30 - 21:00	■ 公開シンポジウム.....14:00 - 17:00



☞発表について

- 口頭発表の講演時間は質疑応答を含めて1人15分です。
- 発表機材は液晶プロジェクターを用意いたします。液晶プロジェクターによる講演では Windows XP (PowerPoint 2002) と MacOS X (PowerPoint 2004) のコンピュータを用意します。発表ファイルの形式は、パワーポイント ppt (pptx は避けて下さい) または pdf でお願いします。ファイルの受付は、12月2日～4日9時～17時の休憩時間中と、17時～18時の間、ホール（口頭発表会場）にて行います。午前中発表の方は前日18時までに、午後発表の方は当日13時までにファイルをお渡しください。受付可能なメディアは CD-R または USB メモリーです。ファイル名は講演番号（半角数字：プログラム参照）に続けて講演者の姓としてください。
- ポスター発表はパネルの大きさが約180cm(縦)×90cm(横)です。この範囲に収まるように各自ポスターの大きさを設定してください。発表会場はホール前のホワイエです。ポスターは大会受付後、各自の講演番号が表示されているパネルに掲示し、4日午前中までに撤去してください（画鋏・セロテープ等はこちらで用意します）。発表時間は2交代制で各1.5時間です（プログラム参照）。
- NPOポスターコーナーは、120cm(縦)×85cm(横)のフレームを用意しますので、これに収まる大きさを設定してください。ポスターはホワイエに終日展示し5日公開シンポジウム終了後までに撤去してください。

》受賞記念講演会

受賞記念講演会①

土屋 誠（日本サンゴ礁学会会長／琉球大学教授）

平成22年度環境保全功労賞受賞記念講演会

『サンゴ礁島嶼域における景観の多様性研究』

受賞記念講演会②

西平守孝（日本サンゴ礁学会前会長／（財）海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター参与）

日本エジンバラ公賞受賞記念講演会

『「棲み込み連鎖」への道とこれからの展開』

日時：12月4日（土）18:00 - 19:00 場所：ホール

》ワークショップ

新学術領域研究 「サンゴ礁学の新しい展開」

オーガナイザー 茅根 創（東京大学）

日時：12月4日（土）13:15 - 16:00 場所：ホール

趣旨：文部科学省科学研究費補助金「サンゴ礁学」においては、1）複合ストレス評価、2）ストレス応答、3）社会システムの3つの連携を軸に研究を進めている。現在までに得られた最新の知見を紹介し、今後の研究の進め方に関する議論を行う。

》公開シンポジウム

「サンゴ礁の生物多様性を支える分類研究とその展開」

オーガナイザー：加藤亜記（琉球大学）・安村茂樹（WWF ジャパン）

日時：12月5日（日）14:00 - 17:00 場所：ホール

趣旨：生物多様性の保全と利用には、「どこに、どのような生物がどれくらいいるのか」を知ることが必要で、その基礎は分類学である。本シンポジウムでは、サンゴ礁域の分類学を基礎とした多様性研究、サンゴ礁の多様性モニタリングと保全施策について話題を提供し、これからのサンゴ礁域で多様性研究を進めていくための取り組みについて議論したい。

》自由集会

自由集会①

「サンゴ礁保全のあり方 ー歴史を振り返りながらー」

オーガナイザー：安部真理子（日本自然保護協会）

日時：12月2日（木）18:30-21:00

自由集会②

「サンゴ礁保全について研究者はステークホルダーとどのように協働できるか ～社会は研究者に何を求めているのか～」

オーガナイザー：佐藤崇範（黒潮生物研究財団）

日時：12月3日（金）18:30 - 21:00

場所：①②ともにホール

》懇親会のご案内

日時：12月4日（土）19:00 - 21:00

場所：つくばカピオ ホワイエ（ホールエントランス）

》託児所

児童の保育を必要とする方のため、会場4階和室およびプレイルームを保育室として無料開放し、有料託児所「キッズハウスつくば」を紹介しています。

》総会

以下の日程で日本サンゴ礁学会総会が開催されます。

日時：12月4日（土）16:15 - 17:45 場所：ホール

日本サンゴ礁学会会員の方はご参加ください。

》口頭発表
(優秀発表賞にエントリーされた発表には、発表ナンバーに※が付いています)

12月2日(木)

No.	時間	タイトル	発表者氏名・所属
1-01※	13:00	サンゴの特定染色体のテロメア長測定を試み:STELA法の適用と検証	○薦 宏典(琉大・理工), 日高道雄(琉大・理)
1-02※	13:15	ストレス評価のためのサンゴ HSP70mRNA の定量法とその遺伝子発現の特性	○大城洋平・金城孝一・仲宗根一哉・城間博正(沖縄県衛環研)
1-03	13:30	造礁サンゴ類の病気における科学的理解とは?	○入川暁之・カサレト ベアトリス・吉永光一・シルバン アゴスティニ・鈴木利幸(静大), エルネスト ウェイル(Univ. of Puerto Rico), 鈴木 敦(静大)
1-04	13:45	沖縄沿岸のシガテラ中毒関連渦鞭毛藻 <i>Gambierdiscus</i> について	Shah, M.M.R.・永村弦太(琉大), 平良洋介・小野寺健一・津波和代・安元 健(沖縄科学技術振興センター), ○須田彰一郎(琉大)
1-05※	14:00	サンゴ礁性洞穴に生息する未記載スナギンチャクの種類及び繁殖生態	○伊礼由佳(琉大・理工), James Davis Reimer(琉大・亜熱帯島嶼)
1-06	14:15	サンゴ礁性海綿動物の無性生殖による浮遊分散	○伊勢優史(東大・附属臨海)
1-07	14:30	八重山におけるシカクナマコの実態	○鹿熊信一郎(沖縄県)
	14:45	休憩	
1-08※	15:00	知られざる脅威?サンゴ礁を被覆する海綿 <i>Terpios hoshinota</i> の南西諸島における出現状況	○藤井琢磨(琉大・理工), 水山 克・中野 恵・広瀬裕一(琉大・理), J. D. Reimer(琉大・亜熱帯島嶼)
1-09	15:15	Dynamics of the coral-killing cyanobactriosponge, <i>Terpios hoshinota</i> in Taiwan	○Yoko Nozawa・Ai-chi Chung・Che-hung Lin(Academia Sinica)
1-10※	15:30	ミドリイシ属サンゴの幼生加入パターン〜種レベルの解析〜	○鈴木 豪・甲斐清香・林原 毅(西水研石垣), 新垣誠司(琉大)
1-11※	15:45	ミドリイシ属サンゴ幼体に獲得される褐虫藻のクレード 〜野外調査による追跡〜	○山下 洋・鈴木 豪・甲斐清香・林原 毅(西水研石垣), 小池一彦(広大・院・生物圏)
1-12	16:00	枝状サンゴ骨格の三次元空間分布	○中森 亨・佐々木 理・鹿納晴尚(東北大・博)
1-13※	16:15	沖縄島東海岸におけるサンゴ礁地形の特異性と海藻植生	○大葉英雄(東京海洋大), 宮本奈保(水生生物調査「藻茂」), 松田伸也(琉大)
1-14	16:30	鹿児島県小島島東方沖陸棚上での礁岩の発見 ー現世サンゴ礁北限の背弧にも水期に造礁サンゴは成育していたのかー	○松田博貴(熊本大・院・自然), 荒井晃作・井上卓彦(産総研), 町山栄章(JAMSTEC), 吉津 憲・三納正美(日本ミクニヤ), 堺理紗子(日本海洋), 佐々木圭一(金沢学院大), 井龍康文(名古屋大), 中森 亨・山田 努(東北大), 藤田和彦(琉大), 杉原 薫(国環研)
1-15	16:45	読谷石灰岩とはなにか?	○井龍康文(名古屋大・環境学研究所)
	17:00	ポスターコアタイム①(発表番号が奇数の方は、ポスターの前で解説をお願いいたします。)	

12月3日(金)

No.	時間	タイトル	発表者氏名・所属
2-01	9:15	沖縄県サンゴ礁海域の栄養塩環境と季節変動	○金城孝一・仲宗根一哉(沖縄衛環研), 灘岡和夫(東工大・情理工), 大城洋平(沖縄衛環研), 佐藤泰夫(いであ), 上原睦男・吉本昌弘(沖縄環境保全研)
2-02	9:30	久米島農地流域における赤土等流出モニタリングとモデリングについて	○林 誠二・山野博哉・石原光則・浪崎直子(国環研), 仲宗根一哉・金城孝一(沖縄衛環研), 安村茂樹(WWF ジャパン)
2-03	9:45	分光量子測定による水質解析を試み	○藤原秀一・毛塚大輔(いであ)
2-04※	10:00	サンゴ骨格中のホウ素含量を規定する因子について	○田中健太郎・大出 茂(琉大・理)
2-05※	10:15	ハマサンゴの骨格成長と Ca-ATPase 遺伝子の発現解析	○日下部誠(東大・大気海洋研)・小崎沙織(東大・新領域), 井上麻夕里(東大・大気海洋研)・日下部郁美(東大・大気海洋研)・井口 亮(琉球大・熱生研)・鈴木 淳(産総研)・酒井一彦(琉球大・熱生研)・川幡穂高(東大・新領域)
	10:30	休憩	
2-06	10:45	地球温暖化に伴う水温上昇および海洋酸性化がサンゴ分布に及ぼす影響	○屋良由美子(北大・地球環境), Meike Vogt・Claudine Hauri(ETH Zurich), Marco Steinacher(Univ. of Bern), 藤井賢彦(北大・地球環境), Nicolas Gruber(ETH Zurich), 山中康裕(北大・地球環境), 山野博哉(国環研)
2-07※	11:00	紫外線パルスレーザーを用いた小型船舶からの新しいサンゴ観測法	○篠野雅彦・松本 陽・桐谷伸夫・山之内博・樋富和夫・田村兼吉(海技研)
2-08※	11:15	実海域におけるサンゴの蛍光撮影装置の開発と試験	○古島靖夫(海洋研究開発機構), 鈴木貞男(O.R.E.), 丸山 正(海洋研究開発機構), 長尾正之(産総研)
2-09※	11:30	石西礁湖は本当に危機的か?	○木村 匡(自然国環研究センター), 下池和幸・佐川鉄平(WWF ジャパン), 吉田 稔(海游)
2-10	11:45	石西礁湖における1998年白化以降のクシハダミドリイシの死滅と回復過程	○岡本峰雄(海洋大), 野島 哲(九大・理院)
	12:00	昼食	
2-11	13:15	市民によるサンゴ群集モニタリング ー大浦湾テレビのアオサンゴ群集の変遷の記録ー	○安部真理子・大野正人(日本自然保護協会), 中井達郎(国士館大)
2-12	13:30	サンゴ群集の最適移転計画	○向草世香(JST さきがけ・長大・琉大), 巖佐 庸(九大・理)
2-13	13:45	港湾整備におけるサンゴの保全・再生	前幸地紀和・○土田真也(沖縄総合事務局開発建設部), 酒井洋一(那覇港湾・空港整備事務所), 小早川弘(平良港湾事務所), 嶋倉康夫(石垣港湾事務所), 小島 栄・坂井隆行(港湾空間高度化国環研究センター), 山本秀一・岩村俊平(エコー)
2-14※	14:00	電着基盤の有性生殖によるサンゴ着生(着床)効果について	○木原一禎・細川恭史(三菱重工鉄構エンジニアリング), 鯉渕幸生(東大・院), 谷口洋基(阿嘉島臨海研), 近藤康文(シービーファーム), 山本 悟(日本防蝕工業)
2-15※	14:15	微弱電場を利用したサンゴ増殖の実海域実験結果	○山本 悟(日本防蝕工業), 木原一禎, 細川恭史(三菱重工鉄構エンジニアリング), 鯉渕幸生(東大・院), 谷口洋基(阿嘉島臨海研), 近藤康文(シービーファーム)
2-16※	14:30	石西礁湖自然再生事業における移植サンゴの産卵	○毛塚大輔・藤原秀一(いであ), 岡本峰雄(海洋大), 野島 哲(九大), 佐藤大樹・小林靖英(環境省)
2-17	14:45	サンゴ群集の復元と創出:移植サンゴ片の手軽な準備	○西平守孝(海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター)
	15:00	休憩	
2-18※	15:15	草の根 MPA(海洋保護区) の宮古島実験報告	○猪澤也寸志(エコガイドカフェ)
2-19	15:30	石垣島エコツーリズムの調査報告	○下田健太郎・山口 徹(慶應大・文)
2-20※	15:45	世界最北限サンゴ群集を利用した観光と地域貢献	○齊藤久美子(和歌山大・経済)
2-21※	16:00	サンゴの海の人魚は、ジュゴンと和瀬か	○目崎茂和(南山大・総合政策)
2-22※	16:15	白保コミュニティによる里海創生〜伝統漁具海垣の復元と生物多様性の向上〜	○上村真仁(WWF サンゴ礁保護研究センター)
2-23	16:30	石垣島・八重山人(やいまびとう) とサンゴ礁の「伝統的」利用ーある根本問題をめぐる省察ー	○深山直子(学振), 棚橋 訓(お茶大)

17:00 ポスター発表コアタイム② (発表番号が偶数の方は、ポスターの前で解説をお願いします。)

12月4日(土)

No.	時間	タイトル	発表者氏名・所属
3-01※	9:15	Survivorship and bleaching of planulae of <i>Acropora tenuis</i> and <i>Pocillopora damicornis</i> under thermal stress	○Dwi Haryanti (Univ. of the Ryukyus), 仲栄真穂 (琉大・理工), 湯山育子 (琉大・理), 日高道雄 (琉大・理)
3-02	9:30	高水温下におけるサンゴホストと褐虫藻の間の炭素・窒素の分配	○鈴木 歎・城間和代・カサレト ベアトリス (静大創造院), シルバン アゴステニ (静大創造), 石川義朗 (環境技術研), 中野義勝 (琉大)
3-03	9:45	New insights on coral bleaching mechanisms	○CASARETO Beatriz・AGOSTINI Sylvain・HIGUCHI Tomihiko・FUJIMURA Hiroyuki (Ryukyu Univ.), YOSHINAGA Koichi・SUZUKI Toshiyuki・SUZUKI Yoshimi (Shizuoka Univ.), NAKANO Yoshikatsu (Ryukyu Univ.)
3-04	10:00	ユビエダハマサンゴ脂質重量の年変動および移植実験	○山城秀之 (沖縄高専)
3-05※	10:15	硫黄島島の酸性海域における造礁サンゴからソフトコーラルへの群集シフト	○井上志保里・茅根 創・山本将史 (東大・地惑), 栗原晴子 (琉大・超域), 高橋麻美 (琉大・理)
	10:30	休憩	
3-06※	10:45	石垣島白保サンゴ礁砂地における Mg-Calcite 溶解の影響評価～現場実験と観測、室内実験の比較～	○山本将史・茅根 創・本郷宙軌 (東大・地惑), 渡邊 敦 (東工大・情報環境), 灘岡和夫 (東工大・情報環境)
3-07※	11:00	サンゴ礁の先史時代人骨にみるサンゴカルシウムの影響	○吉田俊爾 (日歯大・解剖1)
3-08※	11:15	環礁洲島における地下水塩水化	○中田聡史 (地球研), 山野博哉 (国環研), 梅澤 有 (長崎大), 谷口真人 (地球研)
3-09	11:30	石垣島に生息するハマサンゴ骨格の発光バンドと腐植物質の関係	○岨 康輝・渡邊 剛 (北大・院・理), 坂本竜彦 (JAMSTEC), 長尾誠也 (金沢大・LLRL)
3-10	11:45	ツバル国フナフチ環礁フォンガファレ島における窒素負荷とサンゴの大量斃死	○茅根 創・細井 豪・中村修子 (東大・理), 佐野有司 (東大・大気海洋研), 梅澤 有 (長崎大・水産), 山野博哉 (国環研)
	12:00	昼食	

13:15 ~ 16:00 公開ワークショップ「サンゴ礁学の新しい展開」 オーガナイザー 茅根 創 (東京大)

3-11	13:15	造礁サンゴのストレスマーカー遺伝子の開発	○湯山育子・日高道雄 (琉大・海洋自然科学)
3-12	13:30	ストレス応答評価のためのサンゴ骨格及び褐虫藻中微量元素の多元素定量法の検討	○伊藤彰英・小濱姫子・銘刈佑紀・桑江 聖・我那覇翔子 (琉大・教育), 儀間真一 (琉大・機器セ)
3-13	13:45	石垣島轟川流域の造礁性サンゴに記録される土地利用の歴史的变化—その1; キャリブレーション—	○渡邊 剛・山崎敦子 (北大・理), 石原光則 (国環研), 岨 康輝 (北大・理), 大森一人 (北大・理), 長谷川均 (国土館大), 安村茂樹 (WWF ジャパン), 山野博哉 (国環研)
3-14	14:00	エダコモンサンゴの代謝及び抗酸化酵素活性への高水温・バクテリアによる複合ストレス	○樋口富彦・Sylvain Agostini・Beatriz Casareto・吉永光一 (静大), 藤村弘行・川村玲未・佐々木岳 (琉大), 鈴木利幸 (静大), 中野義勝 (琉大), 鈴木 歎 (静大)
3-15	14:15	石垣島白保礁原での造礁サンゴ群集の変化	○杉原 薫 (国環研), 小野由樹子 (福岡大・理)
3-16※	14:30	新たに開発した炭酸系動態モデルを用いた裾礁型サンゴ礁での二酸化炭素フラックスの時空間変動特性解析	○渡邊 敦・山本高大・灘岡和夫・前田勇司 (五洋建設), 宮島利宏 (東大・大海研), 田中泰章
3-17※	14:45	サンゴ礁生物群集の帯状分布パターンの解析と環境応答モデルの構築	○中村隆志・渡邊 敦 (東工大・情報理工), 渡邊 剛 (北大・理), 灘岡和夫 (東工大・情報理工)
3-18※	15:00	サンゴ群集の繁栄は礁形成につながるか? ~地球温暖化に対するサンゴ礁の応答を考える基礎として~	○菅 浩伸 (岡山大), 本郷宙軌 (東大), 杉原 薫 (国環研), 茅根 創 (東大), 長谷川均 (国土館大), 鈴木倫太郎 (駒澤大・応用地理研)
3-19	15:15	石垣島名蔵地区の完新世環境史研究—サンゴの浅海からマングローブ湿地へ—	○山口 徹・スエバ ノソパイリナ (慶大), 松本優衣 (東大), 渡邊 剛 (北大), 菅 浩伸 (岡山), 茅根 創 (東大), 山野博哉 (国環研), 本郷宙軌 (東大)
	15:30	総合討論	
	16:15	総会	
	18:00	記念講演 サンゴ礁島嶼域における景観の多様性研究	土屋 誠 (琉大・理・海洋自然)
	18:30	記念講演 「棲み込み連鎖」への道とこれからの展開	西平守孝 (海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター)
	19:00	懇親会	

12月5日(日)

	9:15	サンゴ礁保全委員会
	12:00	昼食
	13:00	NPO ポスター発表コアタイム

14:00 ~ 16:00 公開シンポジウム「サンゴ礁の生物多様性を支える分類研究とその展開」
オーガナイザー 加藤亜記 (琉球大), 安村茂樹 (WWF ジャパン)

S-01	日本近海にはどれくらいの生物がいるのか	藤倉克則 (JAMSTEC)
S-02	サンゴ礁生態系における海産植物の種多様性と群落構造の特性, 現状と課題	寺田竜太 (鹿児島大水産学部)
S-03	沖縄での種多様性研究とその成果を活かしたアウトリーチ活動の実践例	藤田喜久 (NPO 法人海の自然史研究所)
S-04	サンゴ礁生態系保全行動計画について	荒牧まりさ (環境省自然環境局自然環境計画課)
	総合討論	

》》ポスター発表

ポスター発表のコアタイムは、発表 No. 奇数の方は12月2日(木) 偶数の方が12月3日(金) 17:00 - 18:30です。(優秀ポスター賞にエントリーされた発表には、発表ナンバーに※が付いています)

No.	タイトル	発表者氏名・所属
P-01※	コユビドリイシのマイクロアレイの開発	○新里宙也 (OIST), 井口 亮 (琉大・熱生研), 濱田麻友子 (OIST)
P-02※	琉球列島と小笠原諸島に生息するミドリイシ属サンゴの遺伝的交流について	○中島祐一 (東大・ア生セ), 西川 昭・井口 亮・酒井一彦 (琉大・熱生研)
P-03※	本邦沿岸に生息するエダミドリイシ <i>Acropora tumida</i> の遺伝的特性	○畠山えり子・横地洋之・矢富洋道 (東海大・海洋), 深見裕伸 (宮崎大・農)
P-04	ミドリイシサンゴにおける変態誘導ペプチドのパラログス遺伝子	○服田昌之・松島夏苗 (お茶大・院・ライフサイエンス)
P-05※	飼育サンゴ <i>Acropora intermedia</i> における遺伝的類似度と繁殖成功の関係	○磯村尚子・馬場雄一郎 (沖縄高専・生物資源), 永田俊輔・金谷悠作・山本広美 (海洋博研究センター)
P-06※	ハマサンゴ属マイクロアトールの異質パッチ2	○松島夏苗・服田昌之 (お茶大・院・ライフサイエンス)
P-07	Microbial community variation of black band disease on scleractinian corals in different regions of Taiwan	○Yeong Shyan Yuen・ChaoYang Kuo・ChaiHsia Gan・Chaolun Allen Chen (Biodiversity Research Center, Academia Sinica, Taiwan)

P-08	Effects of heat and high CO ₂ stress on <i>Galaxea fascicularis</i> studied at the microscale.	○AGOSTINI Sylvain・HIGUCHI Tomihiko (Shizuoka Univ), FUJIMURA Hiroyuki・YUYAMA Ikuko (Ryukyu Univ), CASARETO Beatriz・SUZUKI Yoshimi (Shizuoka Univ), NAKANO Yoshikatsu (Ryukyu Univ)
P-09※	酸性化環境におけるコビミドリイシ <i>Acropora digitifera</i> の生理的応答	○高橋麻美 (琉大・理), 栗原晴子 (琉大・超域)
P-10※	酸性化 / 温暖化環境がシラヒゲウニの初期発生期に及ぼす影響	○渡辺友樹 (琉大・理), 栗原晴子 (琉大・超域)
P-11※	CO ₂ 濃度の上昇に伴う環境変動がクマノミ類に及ぼす生理的影響	○福田適子 (長大・生産), 石松 惇 (長大・海セ), 栗原晴子 (琉大・超域)
P-12※	酸性化海水と富栄養化がサンゴポリプの成長と褐虫藻感染に及ぼす影響	井口 亮 (琉大・熱生圏センター), ○加藤亜記 (琉大・熱生圏センター), 中村 崇 (琉大), 井上麻夕里 (東大), 鈴木 淳 (産総研), 酒井一彦 (琉大・熱生圏センター)
P-13	エダコモンサンゴの微量金属元素の濃集とストレス応答	○藤村弘行・佐々木岳 (琉大・海洋自然), 樋口富彦・Sylvain Agostini・Beatriz Casareto・鈴木 款 (静大・創造科技学院)
P-14※	色素分析から見た白化の進行に伴う褐虫藻の量と健康状態の変化	○鈴木利幸・Sylvain AGOSTINI・樋口富彦 (静大・創造科学), 藤村弘行 (琉大・理), Beatriz CASARETO・吉永光一・鈴木 款・塩井祐三 (静大・創造科学), 中野義勝 (琉大・理)
P-15	Acquisition of zooxanthellae in larval stages of <i>Galaxea fascicularis</i>	○Shashank Keshavmurthy・Allen Chen (Biodiversity Research Center, Academia Sinica (BRCAS))
P-16※	サンゴ組織内の褐虫藻の分布および微細構造	○小島春香・原田暢彰・前田将吾・関田諭子・奥田一雄 (高知大・院・理学専攻)
P-17	温帯域の造礁サンゴに共生する褐虫藻のクレード解析	○Lien Yi-Ting (京大・農), 山下 洋 (京大・舞鶴), 白山義久 (京大・瀬戸), 深見裕伸 (宮崎大)
P-18	3種類の単離褐虫藻の生化学的組成と性質	○松岡亮介 (静大・理), 中野義勝 (琉大・熱生研), 栗井光一郎 (静大・GRL), 鈴木 款 (静大・創造院), 塩井祐三 (静大・創造院)
P-19※	高温ストレス下における造礁サンゴ褐虫藻の光合成活性	○高屋陽平 (広島大・生物生産), 山下 洋・鈴木豪 (西海区水研石垣), 小池一彦 (広島大院・生物圏)
P-20	褐虫藻の温度変化に伴う発現タンパク質の変化	○神保 充・荒永康介・本多香織・小池一彦 (広大院・生物圏科学), 安元 剛・大島泰克 (北里大・海洋生命)
P-21	褐虫藻の脂質および脂肪酸組成	○栗井光一郎 (静大・GRL), 松岡亮介 (静大・理), 塩井祐三 (静大・創造院)
P-22	ハマサンゴ <i>Porites australiensis</i> の共生藻光合成における環境応答の多様性	○中村 崇 (琉大・理), 鈴木 淳 (産総研・地質情報), 岩瀬晃啓 (いであ), 井口 亮 (琉大・熱生研)
P-23	オオスリパチサンゴ等のホワイトスポットシンドローム	○山城秀之 (沖縄高専), 福田道喜 (グレートダイバーズ)
P-24※	健康なサンゴと病気のサンゴにおける <i>Vibrio</i> の分布	○平川徹弥 (静大・理), 鈴木利幸・鈴木 款・Beatriz Casareto・吉永光一・Agostini sylvain・入川暁之 (静大・創造科学)
P-25	Behavior of the Cyanobacteria in Black band disease and it's nitrogen fixation	○入川暁之・ベアトリス カサレト・吉永光一・シルバン アゴスティニ・鈴木 款 (静大)
P-26	サンゴの中の細菌群集	○河崎俊彦・ジン タナンゴナン (近大院・農学)
P-27	サンゴ寄生性無腸類ワミノアの産卵と胚発生	○彦坂智恵・小池香苗 (広大・自然科学研究支援開発センター)
P-28	LDO およびマイクロチャンバーを用いた溶存酸素量現地観測の方法について〜サンゴ礁上における有機物生産量の空間構造把握のために	○中井達郎 (国士舘大・江戸川大), 藤村弘行 (琉大・理・海洋自然), 樋口富彦 (静大・院・創造科学技術), Beatriz Casareto・鈴木 款 (静大・院・創造科学技術)
P-29	サンゴ礁の砂地の有機物動態への影響	○田代 翼・Casareto Beatriz・Agostini Sylvain・鈴木利幸・鈴木 款 (静大), 中井達郎 (国士舘大), 藤村弘行 (琉大・理), 中井義勝 (琉大・熱生研)
P-30※	沖縄における生物多様性研究: その意義と社会的インパクト	○藤田喜久 (琉大/海研)・成瀬 貫 (琉大)
P-31※	久米島沖の中深度に生息する造礁サンゴ大群集	○木村 匡 (自然環境研究センター), 下池和幸 (コーラルリサーチダイバーズ), 鈴木 豪 (西海区水研), 仲与志勇 (久米島漁業協同組合), 塩入淳生 (カラーコード), 藤田喜久 (海の自然史研), 山野博哉・浪崎直子 (国環研), 横井謙典 (沖縄県ダイビング安全対策協議会), 小笠原敬 (沖縄県環境科学センター), 安村茂樹 (WWF ジャパン)
P-32※	琉球列島のサンゴ礁礁原で見られる造礁サンゴ群集	○指宿敏幸・實井 崇 (福岡大・院理), 杉原 薫 (国環研)
P-33※	四国における造礁サンゴの分布: 熱帯種とは何か?	○目崎拓真 (黒潮生物研)
P-34	四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入 2004 - 2010	○長谷川亮太 (東海大・院), 雨宮 輝・加藤智也・松井一真 (東海大・海洋), 岩瀬文人 (黒潮生物研), 横地洋之 (東海大・海洋研)
P-35	Coral recruitment patterns at 5m and 15m sites in Lyudao, Taiwan	○Yoko Nozawa・Aichi Chung・Chehung Lin (Academia Sinica)
P-36	奄美大島東岸における過去の台風の高波がサンゴ礁に及ぼした影響評価	○池間仁子 (東北大), 後藤和久 (千葉工大), 箕浦幸治 (東北大), 宮城邦昌 (元・沖縄気象台), 今村邦彦 (東北大)
P-37※	数値計算に基づく台風時のサンゴ礁上の高波流況と被害との関連性の検証	○川俣秀樹 (東北大・工・津波工学), 後藤和久 (千葉工大・惑星探査研究センター), 今村文彦 (東北大・工・津波工学), 本郷宙軌 (東大・理)
P-38※	台風に対する造礁サンゴの生態戦略: 形状と波力について	○本郷宙軌 (東大・理), 後藤和久 (千葉工大・惑星探査研究センター), 川俣秀樹 (東北大・津波工学)
P-39※	トカラ列島のサンゴの現状-1998年の白化現象から回復した健全なサンゴ群集	○下池和幸 (コーラル・リサーチ・ダイバーズ), 木村 匡 (自然環境研究センター)
P-40※	海洋博公園前海域における造礁サンゴモニタリング	○山本広美・金谷悠作・永田俊輔 (海洋博研究センター), 野中正法 (沖縄美ら海水族館), 山川英治・長田智史 (沖環科), 岡地賢 (コーラルクエスト)
P-41※	石西礁湖および周辺海域におけるサンゴ礁生態系の変遷と攪乱要因に関する包括的解析	○斉藤 衛 (東工大・情報理工), 瀧岡和夫 (東工大・情報理工), 佐藤大樹 (環境省・那覇自然環境事務所), 小林朋代 (いであ)
P-42※	分布北限域におけるエダミドリイシ群落の変遷と保護 ― 静岡県沼津市久連での事例	○中島 匠 (東海大・海洋院), 松永育之 (東海アクアノーツ), 権田泰之 (INB プランニング), 横地洋之 (東海大・海洋研), 田中 彰 (東海大・海洋)
P-43	沖ノ島島における5年間のサンゴ群集の成長過程	○川崎貴之・北野倫生・山本秀一 (エコー), 中村良太・石岡 昇・安藤 亘 (水産土木建設技術センター), 森 健二 (水産庁漁港漁場整備部)
P-44	リーフチェック結果の推移	○土川 仁・伊藤 健・菅原正臣・宮本育昌 (コーラル・ネットワーク)
P-45	四国西南部における近年のオニヒトデ発生状況について	○中地シュウ (黒潮生物研)
P-46	天皇海山海域における冷水性サンゴ類の分布調査	○林原 毅・宮本麻衣・柳本 卓 (水研セ)
P-47	沖縄島沿岸におけるイソバナ科の生息環境	○式場はるか (琉大・理), James Davis Reimer (琉大・亜熱帯島嶼)
P-48※	造礁性イシサンゴ類 2科とそれらに生息するサンゴドリガニ類との共進化を探る	○座安佑奈 (京大・理), 野村恵一 (串本海中公園), 白山義久 (京大・瀬戸), 深見裕伸 (宮崎大)
P-49	千葉県勝浦市沖で採集されたピワガラシ <i>Madrepora oculata</i> に寄生する囊胞下綱甲殻類 <i>Petrarca madreporae</i>	○立川浩之 (千葉中央博), MJ Grygier (琵琶湖博)
P-50	沖縄島におけるキクマメスナギンチャク <i>Zoanthus sansibaricus</i> の生息水深域に応じた形態変異及び共生藻との関係	○亀崎南帆 (琉大・理), 比嘉真理恵 (琉大・理), James Davis Reimer (琉大・亜熱帯島嶼)
P-51	Diversity of zoanths and their <i>Symbiodinium</i> in the Ogasawara Islands	○JD Reimer (U. Ryukyus), F Sinniger (Bangor U), K Yanagi (Chiba Museum)
P-52	Effect of depth and intrinsic factors on the reproductive performance of <i>Palythoa caribaeorum</i> (Sphenopidae).	○Angelica Maria Batista-Morales (Marine Ecosystem Program -INVMAR), Alberto Acosta (UNESIS-Pontificia Universidad Javeriana), ○ Javier A. Montenegro-Gonzalez (U. Ryukyus)
P-53	Reef Submarine Groundwater Discharge: Rates and Spatial Correspondence with Benthic Cover and Benthic Microalgal Growth	Ariel C. Blanco (UP Diliman), Kazuo Nadaoka・ ○ Atsushi Watanabe・ Yuki Motomura・ Takumi Tsuchiya・ Syoko Chin (Tokyo Tech)
P-54※	琉球列島沿岸の <i>Nephroselmis</i> 属種の多様性	○Faria, D.G.・加藤亜記 (琉大・熱生研), Reimer, J.D. (琉大・ライジングスター), 須田彰一郎 (琉大・理)
P-55※	沖縄沿岸の有毒渦鞭毛藻 <i>Ostreopsis</i> について	○中嶋 淳・Shah, M.M.R. (琉大・理工), 平良洋介・安元 健 (沖縄科学技術振興センター), 須田彰一郎 (琉大・理)

P-56	亜熱帯海草藻場における葉上動物および魚類群集の生物多様性について	○甲斐清香(西水研石垣), 新垣誠司(琉大熱生圏), 下田 徹・鈴木 豪・福岡弘紀(西水研石垣), 渋谷拓郎(養殖研)
P-57	石垣島における高負荷および低負荷海域の海草葉上付着物化学組成と葉上動物群集の多様性	○下田 徹・福岡弘紀・鈴木 豪・甲斐清香(水研七西水研石垣), 新垣誠司(琉大・熱生研)・渋谷拓郎(水研七養殖研)
P-58	サンゴ礁棲有孔虫の生態分布への人為的影響: ツバル・フナフチ環礁フォンガファール島の例	○藤田和彦(琉大・理), 井手陽一(海洋プランニング), 井上志保里(東大・理), 梅澤 有(長崎大・水産), 長嶺早恵(琉大・理), 茅根 創(東大・理), 山野博哉(国環研)
P-59※	サンゴ増殖用電着基盤の構築	○木原一禎・細川恭史(三菱重工鉄構エンジニアリング), 鯉淵幸生(東大・院), 谷口洋基(阿嘉島臨海研), 近藤康文(シービーファーム), 山本 悟(日本防蝕工業)
P-60※	微弱電場を利用したサンゴ増殖の実海域実験結果	○山本 悟(日本防蝕工業), 木原一禎, 細川恭史(三菱重工鉄構エンジニアリング), 鯉淵幸生(東大・院), 谷口洋基(阿嘉島臨海研), 近藤康文(シービーファーム)
P-61※	生分解性パネルを用いた砂礫底へのサンゴ移植	○文屋 光(東海大・海洋), 小木 翠(東海大・海洋), 横地洋之(東海大・海洋研), 松永育之(東海アクアノーツ), 権田泰之(INB プランニング), 宮部康之(三菱樹脂)
P-62	サンゴ種における着生基盤選択性の違い	○中村良太・石岡 昇・安藤 亘川原真(水産土木建設技術センター), 森 健二(水産庁漁漁場整備部)
P-63	格子状基盤を使用したサンゴ増殖技術の開発ー2. 着生後の生残向上を促す基盤構造・形状の検討ー	○鈴木 豪・山下 洋・甲斐清香・林原毅(西水研石垣), 新垣誠司(琉大), 鈴木 清・家久侑大(ダイクレ)
P-64※	針状構造によるサンゴ移植片への食害防止効果	○小木 翠(東海大・海洋), 文屋 光(東海大・海洋), 横地洋之(東海大・海洋研), 松永育之(東海アクアノーツ), 権田泰之(INB プランニング)
P-65	枝状および卓状ミドリイシにおけるコロニー内の蛍光パターン	○松本 陽・篠野雅彦・桐谷伸夫・山之内博・樋富和夫・田村兼吉(海技研), 荒川久幸(海洋大)
P-66※	可視, 近赤外水中写真画像をもちいたサンゴ健康度の季節変動モニタリング	○斉藤 宏(都立新宿山吹高・地学), 石丸 隆(東京海洋大・海洋科学技術), 灘岡和夫(東工大・情報理工), 渡邊 敦(東工大・情報理工)
P-67	空中写真分析による石垣島周辺のサンゴ礁海底被覆と土地利用の変遷評価: その3	○渡邊康志(GIS 沖縄研究室), 灘岡和夫(東京工大・大院・情報理工)
P-68	高解像度航空写真でどこまでサンゴ礁に迫れるか?	○松田健也・石田和敬(国際航業)
P-69※	衛星画像を用いた石垣島白保におけるサンゴ群集被度変化の評価	○石原光則(国環研)・波利井佐紀(琉球大・熱帯生物圏研究センター)・茅根 創・本郷宙軌(東京大・理)・長谷川均(国土館大・文)・山野博哉(国環研)
P-70	太平洋東アジア海域における衛星画像を用いたサンゴ礁分布図の作成	○鈴木倫太郎・山野博哉(国環研), 荒牧まりさ・滝澤玲子(環境省)
P-71	久米島島尻湾の赤土等堆積調査	○仲宗根一哉(沖縄衛環研), 山野博哉(国環研), 金城孝一(沖縄衛環研), 大見謝辰男(沖縄県中央保健所), 安村茂樹(WWF ジャパン), 田端裕二(久米島漁協)
P-72	環礁洲島における地下水滞留時間の推定	○梅澤 有(長崎大), 中田聡史・谷口真人(地球研), 利部 慎(熊本大), 浅井和由(地球科学研), Greg Wolff・Gunter Koepke(AusAID/PACTAM), 山野博哉(国環研)
P-73※	沖縄の海水浴場周辺海域における紫外線吸収剤の検出	○田代 豊(名桜大・国際), 亀田 豊(埼玉県環科国セ), 仲村 徹・喜舎場勇基(名桜大・国際)
P-74	ジャカルタ湾より採取されたサンゴ骨格(Porites sp.)中の微量元素を用いた海洋環境の復元	○井上麻夕里(東大・大海研), 松田直也(東大・海洋研), 鈴木 淳(産総研・地質情報), 川幡徳高(東大・新領域)
P-75※	LA-ICP-MSによるサンゴ骨格中の重金属含量の定量: タイ湾サンゴ礁への重金属流出のモニタリング	○田中健太郎・大出 茂(琉大・理)
P-76※	石垣島白保サンゴ礁礁川河口における造礁性サンゴ骨格と海水硝酸の窒素同位体比の比較	○山崎敦子・渡邊 剛・角皆 潤(北大・院理)
P-77※	インド洋ケニアのサンゴ酸素同位体比に現れる気候シグナルの解析	○中村修子・茅根 創・飯嶋寛子(東大・地惑), Timothy R. McClanahan(野生生物保護協会・USA), Swadhin Behera(JAMSTEC), 山形俊男(東大・地惑)
P-78※	化石サンゴの酸素安定同位体比およびSr/Ca 測定による西太平洋熱帯域の水温復元	○飯嶋寛子(東大・理)・茅根 創(東大・理)・山野博哉(国環研)
P-79	サンゴ骨格年輪のホウ素同位体比を用いた北西太平洋の表層海水 pH 復元	○新城竜一(琉大・理), 浅海竜司(琉大・超域), K.-F. Huang・C.-F.You(台湾成功大), 井龍康文(名大・院環境学)
P-80	海域特性および陸域特性に基づく琉球諸島サンゴ礁の類型化	○金城孝一(沖縄衛環研), 仲宗根一哉(沖縄衛環研), 灘岡和夫(東工大・情理工)
P-81	西表島北東バラス島の形成過程	○青木健次・本郷由軌・茅根 創(東大・理), 磯部雅彦(東大・新領域), 山野博哉(国環研), 高橋研也・片山裕之・中嶋さやか・関本恒浩(五洋建設)
P-82※	世界海垣サミット in 白保開催報告	○相川陽海(ネブラスカ大), 上村真仁(WWF サンゴ礁保護研究センター)
P-83	辺野古緊急調査結果速報	○安部真理子(日本自然保護協会), 鹿谷麻夕・鹿谷法一(しかたに自然案内), 大野正人(日本自然保護協会)
P-84	シンポジウムアンケートから見たサンゴ礁保全のための普及啓発のあり方	○中野義勝(琉大・熱生研)
P-85※	非サンゴ礁域におけるサンゴ保全の意識調査ー四国太平洋岸のダイバーを中心として	○佐藤崇範(黒潮生物研)
P-86※	沖縄美ら海水族館における飼育サンゴを活用した取り組み	山本広美・○金谷悠作・永田俊輔(海洋博研究センター), 野中正法(沖縄美ら海水族館)
P-87	聞き取り調査に基づく八重山地域における観光の現状と課題	○古堅好美(東工大), 灘岡和夫(東工大), 熊谷航(海洋プランニング)
P-88※	サンゴ礁を伴う島嶼における先史動物資源利用・石垣島の事例 -	○小林竜太(慶應大・文)・佐藤孝雄(慶應大・文)・緑川(名島) 弥生(日本考古学協会会員)・Irina Zueva-Nosova・山口 徹(慶應大・文)

NPO ポスター発表		
NPO ポスター発表のコアタイムは、12月5日 13:00 - 14:00 です		
N-01	WWF ジャパン「しらほサンゴ村」が進める地域参加型の環境モニタリング	○佐川鉄平・鈴木智子(WWF ジャパン), 鈴木倫太郎(駒澤大応用地理研)
N-02	日本全国みんなでつくるサンゴマップー3年目の新機能「白化・産卵」コースの紹介ー	○浪崎直子・山野博哉・鈴木倫太郎(国環研), 土川 仁・宮本育昌(コーラル・ネットワーク), 安村茂樹(WWF ジャパン), 大堀健司(エコツアーふくみ), 古瀬浩史(自然教育研究センター), 佐藤崇範(黒潮生物研), 鋒山謙一(ルーツ&シューツおきなわ), 翁長 均(ネイチャーワークス)
N-03	都市部におけるサンゴ礁保全の啓発活動	○小笠原啓一・堀米真樹・宮本育昌(コーラル・ネットワーク)
N-04	日本造礁サンゴ分類研究会と種子島サンゴ相調査	○野村恵一(日本造礁サンゴ分類研究会)
N-05	辺野古緊急調査速報	○安部真理子(日本自然保護協会), 鹿谷麻夕・鹿谷法一(しかたに自然案内), 大野正人(日本自然保護協会)
N-06	沖縄県サンゴ礁保全推進協議会活動紹介	○沖縄県サンゴ礁保全推進協議会
N-07	OWS 北限域の造礁サンゴ分布調査プロジェクト	○NPO 法人 OWS フィールド委員会
N-08	オニヒトデやサンゴ食巻き貝の駆除活動	○サンゴを食害する動物駆除実行委員会
N-09	海の科学を伝える技術の習得: 米国で開発された科学コミュニケーション実践講座	○藤田喜久・今宮則子・平井和也・都築章子(NPO 法人海の自然史研究所)
N-10	サンゴ礁生態系の再生とサンゴ移植の果たす可能性に思いをはせて	○上原 直(NPO 法人グローイングコーラル)

2nd APCRS 特集 川口基金助成 参加者報告書

2010年6月20日から24日にタイ・ブーケットで開催された第2回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウム(2nd APCRS)では、日本サンゴ礁学会川口基金の一部から、2名の若手会員に対して渡航費の助成を行いました。助成者には、研究発表のみならず、JCRSブース(写真)でのJCRSの活動紹介や海外会員の勧誘、日本のサンゴ礁のアピールなどの広報活動もお手伝い頂きました。



大慈彌みち子

琉球大学大学院理工学研究科博士後期課程
k048561@eve.u-ryukyuu.ac.jp, m.c.ojimi@gmail.com (10月以降)



この度は、川口基金より渡航費支援の機会を頂き、どうもありがとうございました。私は、刺胞動物の老化に興味があり研究を行っておりますが、今回のタイのブーケットで開催された2nd Asia Pacific Coral Reef Symposiumでは、研究テーマの一つであるサンゴの老化について、分子生物学的手法を用いた新たな年齢査定の方法を開発しましたので、報告させていただきました。本方法は、まだまだ改良ならびに議論の余地があり、今回のシンポジウムで多くの研究者と多方面にわたる意見交換が出来た事は大きな収穫でした。さらに、シンポジウム期間中、サンゴ礁研究者としてアジア圏ならびに世界で活躍されている先輩方や友人達と再会する事が出来ました。偶然的な再会にお互い驚きながらも、近況報告から研究についての議論へと話は止まらず発展し、とても楽しくかつ充実した時間を過ごさせていただきました。今後は、このような貴重な経験を活かし、サンゴ礁研究の発展に寄与できたら幸いです。

山本将史

東京大学大学院理学系研究科博士後期課程
yamamoto-s-@eps.s.u-tokyo.ac.jp



このたびは、川口基金より渡航費助成の機会を下さり、誠にありがとうございました。私は海洋酸性化によるサンゴ礁堆積物の溶解について研究しております。ブーケットの発表では、サンゴ礁堆積物中の紅藻や有孔虫に含まれるMg-Calciteが溶解する閾値が、実験室内での溶解実験の結果と石垣島白保サンゴ礁でのフィールドの結果でほぼ一致したという報告をいたしました。私にとって、恥ずかしながら海外(というか英語)は敷居が高く、6年ぶりの海外渡航でした。今回、発表もさることながら、日常会話の英語、研究に対する姿勢、Student night 諸々での消極性など、様々な場面で自分の不甲斐なさを痛感したブーケット渡航でした。日ごろ日本には気づけない発見ばかりで、貴重な経験をさせていただきました。今回感じた思いを忘れずに、今後の研究活動およびサンゴ礁研究の発展に寄与していけたらと思います。

2nd APCRS 特集 Student Best Presentation Award 受賞者報告

2nd APCRSでは、テーマ別のミニシンポジウムとは別に「STUDENT COMPLETION」が開催され、3名の日本人学生が Student Best Presentation Award を受賞されました。口頭発表の部門で受賞された中富伸幸さんと佐藤 唯さん、ポスター発表の部門で受賞された藤井琢磨さんから受賞報告を寄せていただきました。

中富伸幸 (口頭発表)

創価大学大学院理工学研究科博士前期過程
nnakatomi@gmail.com



初めての国際学会で Student Best Presentation Award を受賞できたことは私にとって大きな喜びです。私たちはマレーシアで、低次から高次へのエネルギーの橋渡し役を担う動物プランクトン群集が、何を炭素源として高生産を維持しているのか明らかにし、サンゴ礁生態系の低次栄養段階の食物網を解明する研究を行っています。本研究では、可能な限り同定した動物プランクトンの各分類群と、炭素源試料としてサンゴ粘液などの炭素・窒素安定同位体比を測定した結果、同位体的に有意に異なる炭素を起源とした食物連鎖が複数存在することが明らかとなりました。またサンゴ粘液が同生生態系の高生産に寄与している可能性も示されました。この研究は継続中ではありますが、私がこのような賞を頂けたのは、先輩である中嶋亮太先生と指導教員の戸田龍樹先生の多大なるご指導のお陰です。この場をお借りして、マレーシア国民大学(UKM)とトレンガヌ大学(UMT)の共同研究者各位に謝意を表します。

佐藤 唯 (口頭発表)

James Cook University & ARC Centre of Excellence of Coral Reef Studies
yui.sato1@jcu.edu.au



第二回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウムにおいて Student Award を頂いたこと、とても光栄に思います。現在私がオーストラリアのJames Cook Universityにおいて博士研究としておこなっているサンゴの病気 Black band disease (BBD) に関する口頭発表をしました。過去にはカリブ海道のサンゴ群集の減少とサンゴ礁の变成をもたらしたこの病気ですが、近年になって世界最大のサンゴ礁 Great Barrier Reef においても初めての大発生が観察されました。永久方形区を用いた観察では、Montipora 群集を襲うこの病気の発生率と病斑の拡大速度に海水温と光の強さに同調した季節変動がみられました。自然中における病原微生物群集の発達段階に関しても、分子生物学的手法を用いた世界初の解析を紹介しました。発表後の質問やその後のEメール等を通じて大きな反響をいただけており、たいへんうれしくおもいます。

藤井琢磨 (ポスター発表)

琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程
takumagnum0213@hotmail.co.jp



初めて参加した国際学会はハプニング続きで、自分が賞をいただけるとは思っていませんでした。今回、未記載スナギンチャク類の分類および分子系統に関する研究についてのポスター発表を行いました。サンゴ礁学において「マイナー」な生物、分野を対象とした研究が「賞」という形で評価された事は、指導教官であるライマー先生や、ひいては同様に注目されにくい生物を研究している方々へ対する評価とも解釈でき、非常に嬉しく思っています。本学会では大勢の研究者とお会いする事ができ、充実した時間を過ごす事ができました。また、発表の合間に繰り出したタイの海では、ホームグラウンドである沖縄とは異なる生物相や、サンゴの大規模白化に強い衝撃を受けました。研究経験も浅い自分にとって、このような経験ができた意義は大きく、参加に際して経済的支援を頂いた大学や、研究を支えて下さった皆様に対して深く感謝し、今後の研究の励みにしたいと思います。

編集後記

暑い夏が終わり、いきなり寒くなりました。みなさん。つくばでお会いしましょう。

編集担当 鈴木



2010年10月30日発行

日本サンゴ礁学会ニュースレター [2010 / 2011 No.2]
Newsletter of Japanese Coral Reef Society No.47

- 編集・発行人 / 「日本サンゴ礁学会広報委員会」
- 藤村 弘行・安部 真理子・梅澤 有・鈴木 倫太郎・中村 崇・浪崎 直子・日比野 浩平・渡邊 敦
- 発行所 / 日本サンゴ礁学会 ● 事務局 / 茅根 創 <kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp>
- 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻 Fax: 03-3814-6358